

**第5回エコエリアやまがた推進コンクール
優秀賞（エコエリアやまがた推進協議会長賞）**
※掲載している情報は平成22年度時点のものです。

名 称	農地・水・環境保全向上対策 正厳地域活動組織
所 在 地	尾花沢市

1. 取組の背景・経過等

①取組みの背景

尾花沢市は、東北有数の肥育牛産地であり、奥羽山脈から流れる豊かな雪解け水の恵みを受けた良質米の生産地でもある。耕種農家と畜産農家の連携を強め、良質な牛堆肥の供給・施用という有機質資源循環型の農業システムの確立を目指し、平成17年10月に尾花沢市エコ農業推進協議会が設立され、水稻ほ場への牛堆肥散布の推進を平成18年度から実施している。

正厳地域活動組織では、耕畜連携・資源循環により化学肥料や農薬を低減し、消費者に信頼される「安全でおいしい米」の産地づくりを目指し、平成19年3月から水稻ほ場への雪上堆肥散布を本格的に実施している。

②取組み経過

堆肥の春散布と秋散布は市内全域において実施されているが、雪上散布の実施は正厳地域活動組織の団地ほ場でのみ実施している。初年目の平成19年3月は、対象者：5名、対象ほ場：正厳字下川原地内約5ha程度であったが、中核農家の実践努力により、年々対象者・対象ほ場ともに増加し、平成22年3月には、対象者：21名、対象ほ場：正厳字下川原・清水前・中川原地内他約19ha、散布量：97t（0.5t/10a：つや姫栽培基準）にまで拡大している。

また、正厳地域活動組織では、堆肥散布に加え、農地・水・環境保全向上対策の営農活動支援対象の先進的取組みとして特別栽培米の生産にも力をいれている。

[雪上散布実績推移]

	散布実施者(人)	散布面積(a)	散布数量(t)	※概ね1t/10a
平成19年3月	5	494.40	50.6	
平成20年3月	15	1,237.90	130.5	
平成21年3月	21	1,682.70	171.5	
平成22年3月	21	1,854.30	97.0	※つや姫栽培基準のため0.5t/10a

2. 農業経営・技術と取組姿勢

(1) 環境に配慮した農業技術の実践と工夫

現在、正厳地域活動組織の雪上堆肥散布実施者 21 名全員が特別栽培米を生産している。本市の今年度の「つや姫」栽培該当者は 11 名であるが、そのうち 8 名が正厳地域活動組織の雪上散布実施者である。環境保全型農業の確立を目指して、組織・集落をあげて、化学肥料および化学合成農薬の使用を慣行栽培比 5 割以下に抑えた栽培法に取り組んでいる。

[雪上散布実施特別栽培米生産者の推移]

年産	生産者数(人)	栽培面積(a)
平成 18 年産	1	59.90
平成 19 年産	2	89.60
平成 20 年産	15	1,208.80
平成 21 年産	21	1,653.60
平成 22 年産	21	1,854.30

(2) 家畜排せつ物、稲わら、食品残さ、農業用使用済プラスチック等のリサイクル利用の実践と工夫

正厳地域活動組織で生産された特別栽培米は、約半数が JA みちのく村山のントリーエレベーターに出荷され、乾燥・調製作業の効率化と品質の均一化が行われている。また、ントリーエレベーターから排出される籾殻は、堆肥を製造している尾花沢堆肥センターに供給され、再び良質な完熟堆肥に還元されている。

堆肥の雪上散布は、畜産農家と耕種農家双方に対して、数々のメリットがある。第一に、ほ場を荒らさない。第二に団地化と雪上移動による散布作業の効率化、第三に散布時期の分散による散布作業の効率化と散布ほ場の拡大、第四に融雪の促進による春作業へのスムーズな移行、以上のメリットがあることで年々散布面積が増加したものと考えている。

[雪上堆肥散布状況]



(3) 温室効果ガスの排出の抑制等を含む先進的な環境保全型の農法の実践と工夫

散布された堆肥は、腐植物質として長期間土壌中に貯留される。分解されにくい腐植物質の状態に炭素を土壌に蓄積させることで、大気中への二酸化炭素の排出を抑制している。

加えて、完熟した堆肥のみを投入することで、水田微生物の嫌氣的分解により排出されるメタンガスの発生を極力抑えるよう努めている。

(4) 持続的な環境保全型農業の実践と経営確立

今後の長期的な特別栽培米生産を見据え、雪上散布実施者 21 名全員が、平成 20 年から平成 21 年にかけて土壌診断を実施しエコファーマーの認定を受けるとともに、完熟堆肥の肥効を含めた緻密な施肥設計を毎年実践している。

また、雪上堆肥散布は、ほ場の団地化と散布時期の分散による散布作業の効率化の実現から、散布料金の低減を可能とし、生産コスト削減による継続的な特別栽培米の生産を可能としている。

3. 周辺等への影響力・普及力

(1) 創造性・地域的な影響力

組織をあげて雪上堆肥散布や特別栽培米生産に取り組むことで、集落の環境保全型農業に対する意識が高まるだけでなく、「売れる米」を栽培することへの意識改革も集落全体の生産者の間で浸透してきている。平成 19 年当初、特別栽培米の生産ほ場は正巖字下川原地内のみであったが、現在では正巖字清水前・中川原地内他、集落の広い範囲で生産されるようになった。

出荷先である、みちのく村山農業協同組合尾花沢営農センターでも、特別栽培米について独自の販売ルートを開拓している。出荷された特別栽培米について、全て食味を測定し、その食味の良さを数値で提示した上で販売している。食味値も、平均で、堆肥散布前：80 前後から現在：85 にまで伸びている。

また、各生産者には、測定した食味の数値をすべて返すことで、生産者一人一人に対して良食味の米を生産する意識付けを高める工夫をしている。地元農協と生産者が連携し、「安全・安心」に「おいしさ」を加えて PR することで「売り抜ける」米を目指している。

(2) 消費者等との交流、食農教育・環境教育への参画等を通じた地域の活性化と地域社会発展への貢献

正巖地域活動組織により生産された特別栽培米は、尾花沢市エコ農業推進協議会をとおして、高齢者世帯への食事ボランティアとして平成 19 年度より毎年提供されている。

平成 22 年度は食事ボランティアへの提供に加え、「尾花沢牛肉まつり」での提供も計画している。

(3) 地域の農業資源保全と活性化

正巖地域活動組織では、堆肥散布ほ場の団地化を拡大し、特別栽培米の生産に組織をあげて取り組んできた。

その成果のひとつとして、集落の農道や水路の整備、道路沿いの花の植栽活動といった、共同活動を行う際の生産者間の意思統一が容易になり、集落全体の住環境向上に対する生産者の意識を高めることができた。

4. その他特記事項

正巖地域活動組織での雪上散布の実施成果を受け、尾花沢市エコ農業推進協議会でも、平成 22 年度から他の集落・活動組織に対しても雪上散布実施の募集をし、市内全域において、耕畜連携による資源循環・環境保全型農業を推進することを計画している。

5. 取組の成果と展望

正巖地域活動組織は、水稻ほ場への堆肥散布事業が実施された平成 18 年度から現在まで、毎年雪上堆肥散布を実施してきた。

その結果として、

- ①集落全体の環境保全型農業に対する意識が高まり、生産者の「売れる米づくり」に取り組むことへの意識改革と、特別栽培米の生産拡大を図ることができた。
- ②堆肥散布の長期継続により、健全な稲の生育と収量の安定、食味の向上等「安全でおいしい米」づくりの実践ができた。

といった成果をあげることができた。

今後も、雪上堆肥散布と特別栽培米の生産を拡大し、集落をあげて消費者に求められる米づくり・産地づくりを目指した取組みを実践していく。